

4. 【報告事項2】令和7年度事業計画と予算

4.1 令和7年度事業計画

4.1.1 管理運営

(1) 総会

総会は定時社員総会として事業年度終了（12月31日）後2カ月（2月末日）以内に開催する。総会では事業報告及び決算の承認、定款の変更、理事の選任他の重要事項を決議する。

(2) 理事会

令和7年度中に、2回あるいはそれ以上理事会を開催し、事業計画・収支予算、事業報告・決算の審議承認の他、社員総会の招集及び審議事項、規則の制定、変更、本会議の職務執行の監督、役員員の選定等の審議・決定等を行う。

(3) 企画委員会

企画委員会を適宜開催し、次の業務を行う。

- ① 会長の作成する事業計画書の内容となる事業等について検討
- ② 大ダムに係る調査研究等の成果の紹介及び普及啓発のための企画案を作成

(4) 技術委員会

技術委員会を適宜開催し、次の業務を行う。

- ① 大ダムに関する調査研究
- ② 国際的な技術交流等に関する計画案を作成

4.1.2 事業

定款第4条に定める次の事業を行う。

- ・大ダムに関する情報収集、調査及び研究
- ・大ダムに関する技術の交流及び指導
- ・国際大ダム会議への参加及びその活動に対する協力並びに大ダムに関する国際技術交流
- ・大ダムに係る調査研究等に係る成果の紹介及び普及啓発

(1) 国際大ダム会議等国際交流事業

1) ICOLD 第28回大会／第93回年次例会（中国・成都）参加

2025年5月17日（土）から5月23日（金）まで中国・成都で開催されるICOLD第93回年次例会／第28回大会（中国・成都）に参加する（表－4.1）。

表－4.1 ICOLD 第28回大会/第93回年次例会 日程

日付		午前	午後	夕刻
5月13～15日		プレスタディーツアー		
年次例会	16日 (金)	・ICOLD 役員会議	・技術委員会 委員長会議	
	17日 (土)	・ICOLD 技術委員会ワークショップ		
	18日 (日)	・技術委員会 ・若手技術者フォーラム	・技術委員会 ・若手技術者フォーラム ・地域会議 ・仏語圏会議	

	19日 (月)	・国際シンポジウム ・技術展示会開会式	・国際シンポジウム ・技術展示会	歓迎会
	20日 (火)	・技術見学会 ・総会 ・ワークショップ ・技術展示会	・技術見学会 ・技術展示会 ・ワークショップ ・技術展示会	文化行事
大会	21日 (水)	・大会開会式 ・Q108&109 総括報告 ・技術展示会	・Q108&109 論文発表 ・技術展示会	日本人会
	22日 (木)	・Q108&109 論文発表 ・技術展示会	・Q110&111 総括報告 ・Q110&111 論文発表 ・技術展示会	
	23日 (金)	・Q110&111 論文発表 ・技術展示会	・Q110&111 論文発表 ・大会閉会式	送別会
24~27日		ポストスタディーツアー		

会場： Chengdu Century City New International Convention and Exhibition Center

① 技術委員会

技術委員会に参加し情報交流する(表-4.2)。技術委員会の進捗状況・課題の確認、情報共有等のため、事前に国際分科会を開催する。

表-4.2 技術委員会への参加

区分	委員会名	氏名	所属
A	ダム解析設計における 計算問題委員会	森 貴信	日本工営株式会社
B	ダム設計における地震問題委員会	佐々木 隆	一般財団法人ダム技術センター
C	ダム水理委員会	酒井 匠	株式会社建設技術研究所
D	コンクリートダム委員会	山口 嘉一	一般財団法人ダム技術センター
E	フィルダム委員会	田頭 秀和	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
F	水資源計画 エンジニアリング委員会	(調整中)	
G	環境委員会	中込 淳	一般財団法人水源地環境センター
		安田 吾郎	株式会社 IHI
		福田 悠太	日本工営株式会社
H	ダム安全委員会	曾田 英揮	独立行政法人水資源機構
HWS	歴史的な水利構造物(水利遺産)	井上 一哉	神戸大学大学院
		川崎 秀明	一般財団法人ダム技術センター
I	ダムを取り巻く公衆の安全委員会	佐々原 秀史	独立行政法人水資源機構
J	貯水池堆砂委員会	佐藤 正俊	中部電力株式会社
		角 哲也	京都大学 防災研究所
K	水力発電統合運用委員会	中島 洋	関西電力株式会社
L	鉦津ダム委員会	(不参加)	
LE	堤防委員会	森 啓年	山口大学工学部
M	ダム運用・維持および補修委員会	吉村 健	九州電力株式会社
N	広報・啓発委員会	杉山 弘泰	電源開発株式会社

O	ダム台帳・文書委員会	柏柳 正之	電源開発株式会社
P	セメント混合材料ダム委員会	安田 成夫	一般財団法人ダム技術センター
Q	ダム監視委員会	恒川 明伸	東京電力ホールディングス株式会社
RE	貯水池水没移転委員会	(不参加)	
S	ダムの安全のための 洪水評価委員会	水橋 雄太郎	電源開発株式会社
T	ダムの将来見通しと課題 委員会	福田 忠弘	日本工営株式会社
TRS	風化熱帯土に関する委員 会	(不参加)	
U	ダム及び河川流域の管理 委員会	(不参加)	
V	水理機械委員会	山本 浩樹 安田 吾郎	八千代エンジニアリング株式会社 株式会社 IHI
X	財務・諮問委員会	(不参加)	
Y	地球気候変動とダム委員 会	筒井 純一	一般財団法人電力中央研究所
Z	技術者能力向上とダム委 員会	(不参加)	
ZA1	エネルギー転換と気候変 動におけるダムの役割に 関する国際宣言委員会	(不参加)	
ZA2	性別ダイバーシティ&イン クルージョン委員会	(不参加)	
ZX2	若手技術者集会	笹木 悠佑	八千代エンジニアリング株式会社

② APG会議

ICOLD 地域クラブのひとつである「アジアパシフィックグループ(APG)」の会議を主催(角副総裁がAPGの議長)し、当地域のダム情報交換と技術交流活動を推進する。

③ 国際シンポジウム・テーマと応募状況

今回のメインテーマは、Common Challenges, Shared Future, Better Dams (共通の課題、未来の共有とより良いダムへ)である。5つのサブテーマが設けられている(表-4.3)。会員に広く投稿依頼をしたところ、5件の応募があり、中国での審査・JCOLD 論文査読WGでの審査を終え、中国事務局へ提出済みである。

表-4.3 国際シンポジウム・サブテーマ

原文	和訳
T1. Precautionary management of dams and river basin under climate change	気候変動下におけるダムと河川流域の予防的管理
T2. Multifunctional development of dams and reservoirs	ダムと貯水池の多目的開発
T3. Technologies for dam construction under complex (extreme) conditions	複雑(極端)条件下におけるダム建設技術
T4. Digital technology applied in dams and digital river basins	ダムのデジタル技術及び流域のデジタル化
T5. The role of dams in achieving the goal of reducing carbon dioxide emissions	二酸化炭素排出量削減目標を達成するためのダムの役割

表－ 4.4 日本からの投稿論文

No.	区分	論文名 (和訳名)	筆頭著者	所 属
1	T1	既存ダム of 動的挙動特性に基づくリスク評価	柏柳 正之	電源開発株式会社
2	T2	川辺川の流水型ダムの新たな水理設計	高田 翔也	(国研) 土木研究所
3	T3	大規模地震で被災したフィルダムの復旧に伴う狭小部の堤体盛立	宮川 美輝	(株) 三祐コンサルタンツ
4	T4	ダム再開発工事における 3次元流体解析を用いた施工安全性の検討	小俣 光弘	株式会社大林組
5	T4	緊急時の衛星 SAR を用いたダム流域モニタリング計画と適用可能性検討	庄路 友紀子	電源開発株式会社

④ 大会課題と応募状況

今回の課題は、表－ 4.5 に示す Q108～Q11 の 4 課題である。日本からは表－ 4.6 に示した課題論文 7 編 (Q109 : 3 編、Q110 : 1 編、Q111 : 3 編) と報文 1 編の応募があり、JCOLD 論文査読 WG での審査を終え、中国事務局へ提出済みである。

表－ 4.5 大会課題

原文	和訳
Q.108 DAMS AND RESERVOIRS FOR CLIMATE CHANGE ADAPTATION 1. Dams for Pumped Storage: specific features, design, examples of implementation 2. Off-river dams for water storage and flood protection 3. Offshore dams and tidal power plant 4. Dams for recharge of aquifers and other new concepts 5. Floating solar on dam reservoirs – opportunities and risks	課題 108 気候変動に対応するダムと貯水池 1. 揚水発電用貯水のためのダム、固有の特性、設計、実用事例 2. 貯水および洪水緩和のための河道外ダム 3. 沿岸ダムおよび潮汐発電所 4. 帯水層への補給および新たなコンセプトのためのダム 5. 湖上太陽光発電、チャンスとリスク
Q.109 DAMS AND LEVEES FIT FOR THE FUTURE 1. Management of an aging portfolio of dams in terms of operation, maintenance, and rehabilitation, including risk-based approaches 2. Safety during construction and rehabilitation 3. Special case for small dams and levees 4. Impact of contracting practices on dam safety (e.g., private sector involvement, EPC contracts) 5. Increasingly difficult sites and their new challenges 6. Need for global capacity building	課題 109 次世代に適合するダムと堤防 1. 運用、保守と再開発の観点における様々に経年化したダムの管理 (リスクベース手法を含む) 2. 建設時および再開発時の安全 3. 小規模ダムおよび堤防の特殊事例 4. ダム安全にかかわる契約方法の影響 (たとえば、民間セクターの関与、EPC 契約) 5. 増大する開発困難なサイトとその新しい課題 6. 包括的な能力構築の必要性
Q.110 SAFETY OF DAMS AND LEVEES FACING EXTREME HYDROLOGICAL EVENTS 1. Assessment of extreme events (e.g., flood, droughts, typhoons/hurricanes, glacial lake	課題 110 極端水文事象時のダムと堤防の安全 1. 極端事象 (たとえば、洪水、渇水、台風、氷河湖決壊に起因する洪水) の評

<p>outburst floods) in the context of climate change, accounting for uncertainty</p> <p>2. Assessment for the safety of structures for extreme floods; management options (e.g., increasing dam height, spillway capacity, reservoir operation)</p> <p>3. Flood forecasting, hydraulic management of multiple projects within river systems</p> <p>4. Reassessment of the flood data and mitigation e.g., fuse devices, overflow resistance, controlled breach formation, warning and evacuation, crisis and emergency management</p>	<p>価</p> <p>2. 極端洪水に対する構造物の安全性評価および他の対策（たとえば、ダムかさ上げ、洪水吐容量、貯水池運用）</p> <p>3. 洪水予測および流域内のダム群に関する水理的管理</p> <p>4. 洪水データおよび洪水緩和法の再評価、たとえばヒューズ施設、越流抵抗、制御された決壊、警報や避難、危険・緊急時計画</p>
<p>Q.111 EARTHQUAKE PERFORMANCE AND SAFETY OF DAMS</p> <p>1. Static, seismic and post-seismic monitoring of dams</p> <p>2. Feedback from earthquake failures, including tailings dams and levees</p> <p>3. Importance of multiple features of earthquake hazard (e.g., ground shaking, surface fault movements, mass movements)</p> <p>4. Seismic design and performance criteria for dam structure, reservoir rim and impacted area</p> <p>5. Earthquake safety evaluation of all types of dams and safety-critical elements (e.g., spillway, low-level outlets)</p>	<p>課題 111 ダムの地震時の性能と安全</p> <p>1. 常時、地震時および地震後のダム計測</p> <p>2. 鉦滓および堤防の決壊事例を含む地震時の事故事例からの教訓</p> <p>3. 多様な地震ハザード（たとえば地盤の振動、表層断層のずれ、大規模な変位）の重要性</p> <p>4. ダム構造物、貯水池周辺部および影響領域における耐震設計と性能基準</p> <p>5. すべての形式のダムおよび安全性重要な構造物（たとえば洪水吐、底部放流管）の地震時安全性評価</p>

表－ 4.6 日本からの大会課題提出論文

No.	Q	論文名（和訳名）	筆頭著者	所 属
1	109	同軸嵩上げ重力式コンクリートダムの施工計画に関する基礎的検討	安田 成夫	(一財)ダム技術センター
2	109	一ツ瀬川における濁水長期化軽減をめざした大規模貯水池ダムの対策運用・管理について	徳永 和紀	九州電力(株)
3	109	原位置で計測された既設コンクリートダムの動弾性係数の経年変化と地震時再現解析による計測法の検証	野崎 渉太	電源開発(株)
4	110	段波と超過洪水を経験した発電用3ダムの事例と考察	恩田 千早	電源開発(株)
5	111	台形CSGダムの耐震性能に関する一考察	安田 成夫	(一財)ダム技術センター
6	111	水平クラックを有する古い石積み重力式ダムにおける堤体耐震補強の解析的評価 —千本ダムを事例として—	川崎 秀明	(一財)ダム技術センター
7	111	地震観測記録を用いたダムピアの非線形解析モデル化に関する検証	松岡 賢樹	関西電力(株)

8	報文	大型のラビリンス型洪水吐きを有する千五沢ダム of 構築	山田 史章	清水建設(株)
---	----	------------------------------	-------	---------

⑤ 技術展示

JCOLD ブースを2 区画 (1 区画 : 3m×3m) 予約しており、ICOLD 技術展示企画・運営委員会が今後展示内容を協議、準備、展示運営を行っていく。

⑥ 日本開催ポストスタディーツアーの実施

中国事務局と連携し、ポストスタディーツアー (黒部ダム、足羽川ダム見学) を的確に実施する。

(2) 調査研究事業

1) ダム建設状況調査

令和7年3月31日現在の工事中のダムについて「大ダム調査表」により調査し「ダム建設状況調査表」にまとめ会誌「大ダム」に掲載する。

2) ダム施設概要調査

令和6年4月1日より令和7年3月31日までに竣工したダムについて調査し「ダム施設概要調査表」を作成する。上記(1)とともに調査の成果を ICOLD 技術委員会 “Committee of the World Register of Dams and Documentation” に報告する。

3) 国際分科会

2025年5月に中国・成都にて開催される第93回年次例会に向けて、技術委員会の進捗状況・課題の確認、情報共有等のため、事前に国際分科会を開催する。また、角教授の ICOLD 副総裁としての活動とも連携しつつ、APG 会議及び APG シンポジウムへの貢献を行う。

査読 WG では、ICOLD メキシコ年次例会国際シンポジウム提出論文の論文査読を行う。
JCOLD-YPF の活動を的確に実施する。

4) ダムコンクリート凍害実験研究分科会

次に示す定例の審議会を開催するほか、現在までの調査結果のとりまとめを実施する。

令和7年6月：各参加機関における令和7年度調査計画の報告及び審議の実施

令和7年12月：定例測定結果の報告、取りまとめ状況の審議

5) ダムの効用増大および流域環境向上のためのダム再開発事例分科会

ICOLD2025 (5/16~23、中国・成都)において、WSを開催する。

Bulletin に向けた調整・作業を実施する。

6) ダム及び基礎の地震時加速度記録更新分科会

2012年10月以降、2024年12月までのダム基礎で25gal以上の地震を対象に2026年に完成に向けて作業を進める。

調査対象は、国土交通省、農林水産省、地方自治体、水資源機構、各電力会社、JR 東日本が所管するダムとする。

(3) 内外情報発信事業

1) 会誌「大ダム」の発行

企画委員会編集分科会の編集方針に基づき、会誌を4号発行する。ICOLD 中国・成都年次例会/大会開催案内と報告、同シンポジウム発表論文紹介、ダム技術講演討論会概要等を掲載し、日本大ダム会議の活動及び内外のダム技術関連情報等を会員及び一般購読者等に広く紹介する。

2) 広報・環境分科会の活動

① Workplace の運用を通じた情報発信

国際会議で参加者間の情報共有の利便性を高めるため、継続して使用していくこととする。
(予め中国国内での使用可否について調査し、使用できない場合には別な方法を考える。)

② Dams in JAPAN 2025

2025年中国成都での大会時に紹介する Dams in JAPAN 2025 を発刊する。

3) 角 ICOLD 副総裁を通じた日本の情報発信と海外情報収集

角 ICOLD 副総裁の活動支援を的確に行う。これを通じて日本の情報発信を行うとともに、ICOLD 役員会情報ならびに ICOLD 各国の情報を JCOLD 会員へ適切に発信していくこととする。

また、費用面でのサポートとして、角 ICOLD 副総裁が ICOLD 役員会出席のための渡航費などの一部経費について JCOLD から支出することとする。

(4) 技術交流・指導事業

1) ダム技術講演討論会

第58回ダム技術講演討論会を、一般社団法人日本大ダム会議と一般社団法人ダム・堰施設技術協会の共催で10月末～12月初旬に開催する。開催にあたっては、昨年と同様に一般財団法人日本ダム協会施工技術講習会との合同開催とする。

2) ダム現場見学会

ダム現場見学会は、平成19年度からダム工学会と共催で秋季に実施しており、令和7年度も同様に実施する。